

成熟した社会においての文化は、生活のレベルそのものであり、自然発生的に培われ、日常生活の衣食住と同様に生活習慣の中で育まれていくものと考えます。

それ故に、民族、国、地方等、生活習慣によっては、それぞれの文化、価値観の違いにもふれることがあります。

私たちは、お互いの異文化についても認めあうことが大切であり、広く人間としての誇りを失わず、高めていくことに大きな意義があると信じます。

北国に位置する札幌市は厳しい冬の雪、春を待つやさしい心、輝く太陽の夏、紅葉に彩られた豊穡の秋、四季折々の素晴らしい季節に恵まれ計り知れない自然の恩恵に浴しています。

このことは人々の感性にふれ、心をゆさぶる文化発信への原点でもあり、私たちはこの自然との共生の中で夢を語り、描き、奏で、個性溢れる文化活動、スポーツを育み、世界に発信する街、札幌を表現していこうではありませんか。

記

1. 芸術の森 (PMF)、キタラ、コンベンションセンター等を通して、学術、芸術家たちの交流をすすめ、若い人たちの育成を、又、市民鑑賞の機会を多くする。
2. 歴史的価値のある大通公園を民族の交流等、例えば大道芸人の登龍門として活用、個性が花開くことであろう、経済の効果も考えられる。
3. 先住民族、アイヌ文化の誇りを伝承、啓発。
4. 歴史的遺産建造物の活用、保存、発掘等、文化的価値、観光資源としても考えたい。(北海道が保存しているものについて特におもう)
5. 日常的に文化活動を支援する場所の提供を期待する。(かなりの文化活動の発展が期待できるとおもう)
6. オリンピック開催都市としての集積、スキージャンプ台等、大いに活用、大会の誘致等。
7. プロスポーツの誘致の効果の偉大を感じる(新庄効果は特にすごい)
8. 今、中高年者たちは、健康であることの有難さを一番認識している。様々なプログラムの中で、関心を持っているが、時間がないと言うのがネックになっている。現代人の忙しさが、スポーツに及んでいることは残念におもう。

生きることは学ぶこと，働くこと，生きる力を

“今の若者たちは”“そして今の大人たちは”と疑問符を投げかける言葉が頻繁に伝わってくる此頃です。

いつの時代においても世代間のギャップはあって当然と考えますが，いじめ，虐待，人間愛はおろか，実の親でさえ殺人を，又様々な考えられない事象も発生，どうしてこのような世の中になったのでしょうか。

家庭が学校が社会が悪いと犯人探しをしたところで，今日ここまで来ると手のほどこしようながないと言うのが本音です。

物であれば修正，補修，つくろい，色々ありますが，人の心だけはそうは参りません。

ふりかえると核家族による社会構造の変化，グローバルな情報社会，テンポの早い技術革新の企業社会，少子高齢化の人口のアンバランス，社会保障の不安定，地域社会の連帯のなさ，どれひとつ取ってもトラウマ現象に落ち込んでしまいそうです。

人づくりは 50 年，100 年の歳月と言われます。今こそ私たちの時代の責任において，未来思考を重ね合せて老若男女みんなで人づくり&自分づくり，生きる力の自己実現にむかって努力をしようではありませんか。

記

- 1．生きることは，学ぶこと，働くこと，生活習慣を子どものうちから育み，生きる力をつけよう。
- 2．大人社会の急速な社会構造の変化に対応し，家族，家庭のあり方，大切さを考え，みんなで生涯設計の再構築を考えよう。
- 3．企業社会の意識改革が出て来ており，ファミリーフレンドリー企業の推進がある，最も大切な人間回復につながる。
- 4．男女共同参画社会，高齢者，障害者，子どもの人権について，みんなで考え，実践する札幌。
- 5．シニア大学，老人クラブ，様々な学習が行われているが，その効果を地域の街づくりに知恵と経験を還元，貢献すべきである。
- 6．学校運営について教師，学校だけが悩まないこと，PTA，地域の人々が参加することによって理解，問題解決につながる開かれた学校運営が，子どもの成長，親の認識，責任が出てくる。
- 7．小中一貫教育について，研究校として特区が必要と考える。（あいの里附属小は余りにも遠距離）
- 8．子どもたちに感動を与える教師の輩出を期待する。